



避難の仕方

基本 「立ち退き避難」
災害が発生する前に、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域の外にある指定避難所などの安全な場所に避難する。

時間や屋外の状況で判断
●状況が厳格な場合、屋外へ退くと危険な場合。
●自宅の周辺がすでに多量に浸水している、壁が強い、窓が割れているなど、危険な状態に陥る場合。

逃げおくれ 「屋内安全確保」
●自宅の2階以上 (斜道が崩れた部屋) ●土石流が想定されている場所では、丈夫なコンクリートの建物へ。
●危険を感じたら、避難動向などを待たずに自主避難を! 逃げ遅れによる被害が多くなっています。

みんなで覚えておこう! ハザードマップの見方

日頃から備えておくこと

状況に応じた避難ルートを確認しておこう!

自宅周辺の災害危険性を把握しておきましょう

避難先・経路・方法を確認しておきましょう

非常持出品の準備をしておきましょう

指定緊急避難場所等

- 指定避難所 (建物アイコン)
- 福祉避難所 (建物アイコン)

要配慮者利用施設

- 要配慮者利用施設 (建物アイコン)

防災関係施設等

- 市役所・支所 (建物アイコン)
- 警察署・交番 (建物アイコン)
- 消防本部・消防署 (建物アイコン)
- 水位観測所 (建物アイコン)

洪水浸水想定区域 (浸水の深さ)

5.0m~10.0m未満	5.0m
3.0m~5.0m未満	3.0m
0.5m~3.0m未満	0.5m
~0.5m未満	0.5m

土砂災害警戒区域等

- 土砂災害警戒区域 (土砂災害のおそれがある区域) (赤い旗アイコン)
- 土砂災害特別警戒区域 (建物が破壊され、住民に大きな被害が生じるおそれがある区域) (赤い旗アイコン)